曲亭馬琴著

金毘羅船
利生纜

三編　六冊合巻

溪齋英泉画

へ13
3159
3

特
へ 13
3159
3

天朝の人にして渡天の僧あることを近世渡天の作あり。むかし三河の守大江定基祝髪入道して法名を寂照といふ。且その道徳碩学のきこえ天台座主に補せられし三千の僧録なりし。尓后宋の天台山を眼前見まく欲りして渡海して彼土に至りぬ。然るを能楽石橋の一曲に又云云と綴り易へて天竺清涼山に登りし事とせり。今この冊子に著しつる浄蔵法師の渡天のうへも石橋曲の類にて、嘻華定月南柯無枕昔の言理外の境に遊びて夢の浮橋桁を数へて事迹の有無を論ずるは柱に膠するに似たり。将唐山の小説を皇國のうへに移し更るに彼と此と物みな異なれば本書にかゝはれて作意に自由を得がたきを、率して綴りなす作者の苦心は十分あるも看官は二分三分なる、それをよく時好にかなはせんとて労して功なきことなからし。鏤して利あらん書肆のためにあらでのみとぞいふのみ　丙戌孟春　曲亭馬琴著作堂下に述

六孫王経基
信天翁
小龍王
金鱗

常施行
狂齋
辛府の良民
白大夫
錦織判官代照國

はらし井乃
捨落よ
届くるべ
吊掃
こゝろ
葉笠
延喜聖主

左大辨希世霊鬼
下のこだ
情の
うらみ
錦かな
開齋
竹田日蔵が妻世居

鷲斎
節折内親王
菅家忠臣
竹田日蔵

観世音の権化
著作堂
従三位
菅原文時卿

（一）左の上

（一）右の下

左の上へ

[illegible]

[illegible]

右の下へ

次へつゞく

唵嚩呢叭呢吽

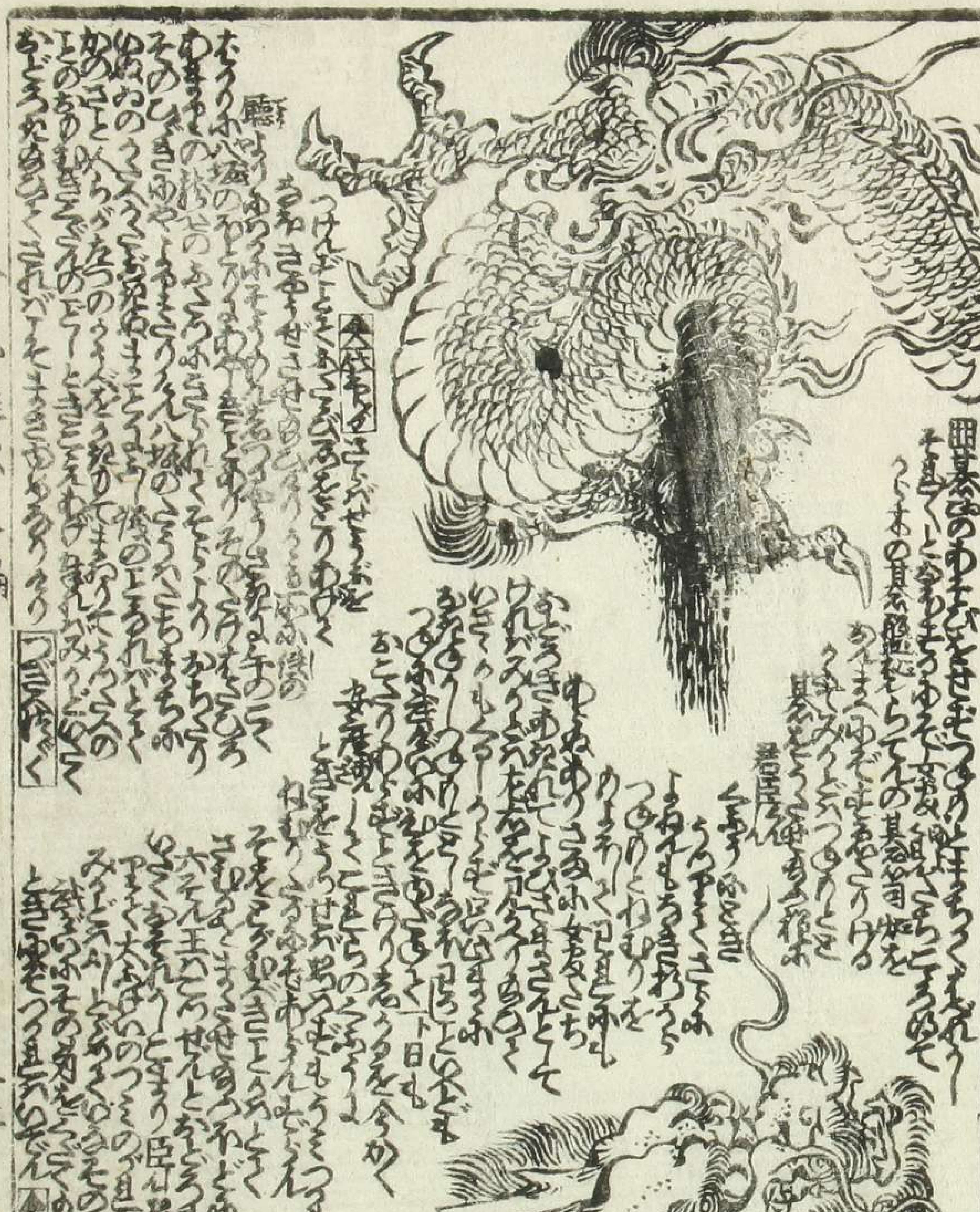
これより又延喜のみかどと申すハ人皇醍醐の天子[illegible]天皇と申し奉る[illegible]寛平九年七月[illegible]御位につかせ給ひ[illegible]昌泰と改元[illegible]又延喜と[illegible]在位三十三年[illegible]世の中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



左の上

右の下
上へ
下へ

英泉画
馬琴作
筆耕 千形仲道

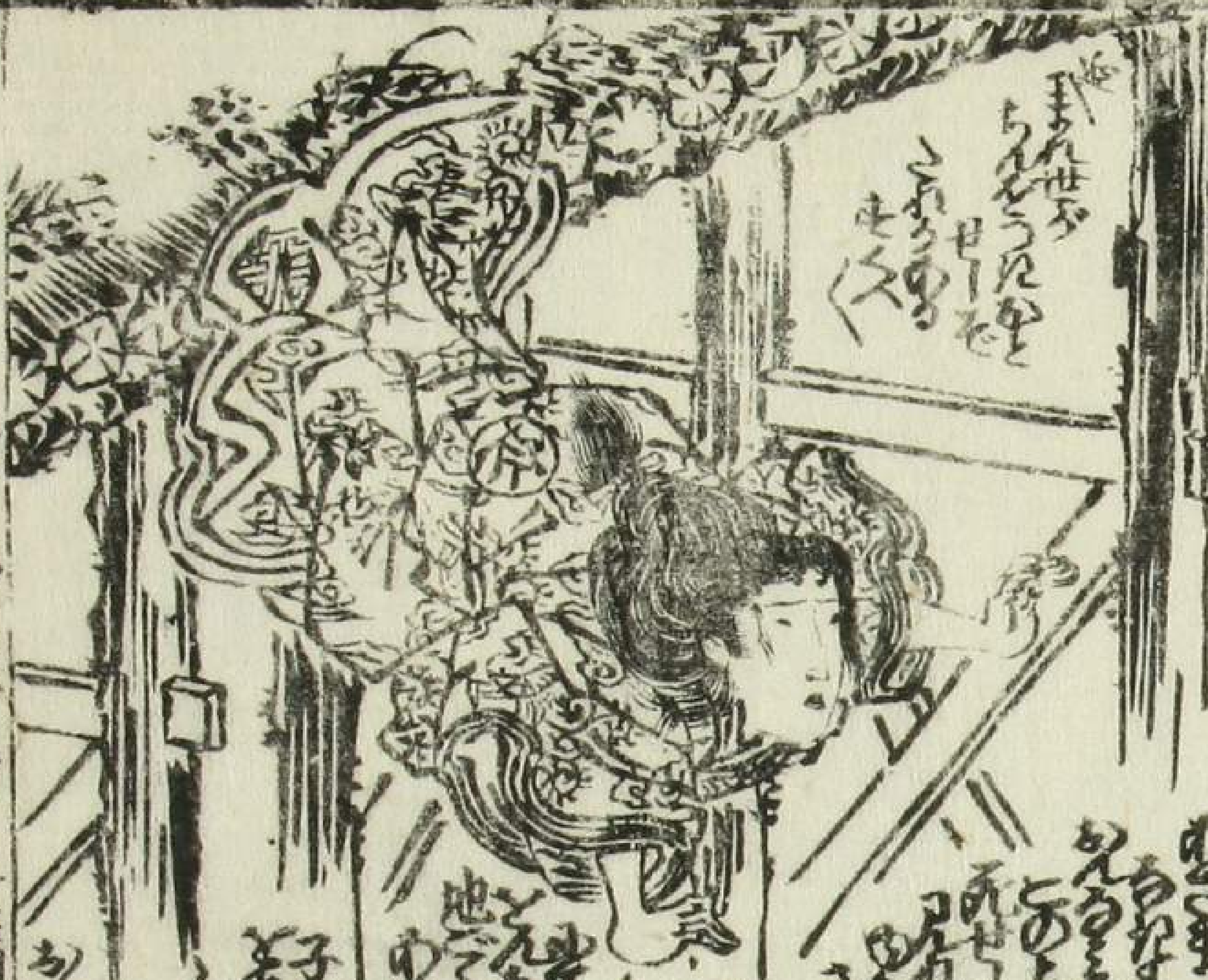
右の下へ

東宮
寛明

右上へ

右の上へ

これらのことをきこしめされ御ゆめにてぜんあく
ちぶ大夫よく〳〵きゝあへこれより
めずらしき山ちうにこれよりせかへをそ
きやうの牛をひきとまりおしへるそのうへ
うら人おりてあさおのれけのみよ
ことおもへども ひとつへ
とおりめぐりて世にまよひあらそふて
ひとつにおもふにおもはれ世にいふて
あるもの牛のちかひをむすびてく
つらひてそのみちをと
おやもしれ牛とこそあれ
まはるおやぶちのの
さんびよろこびお
そ世をの
死してのこる
らくせうの
くすりをそうるとき
まだ六ぶちの
ごしと死にそめし
あればみつからでは
のおもひなりとて
ふびんにおぼし
めせどもうく
あるべきことかなは
くらべのし
うものりくひとの
山をこえゆく人にぞ名をあらはし
ちのいけのおもむき
ちかづきにまひける

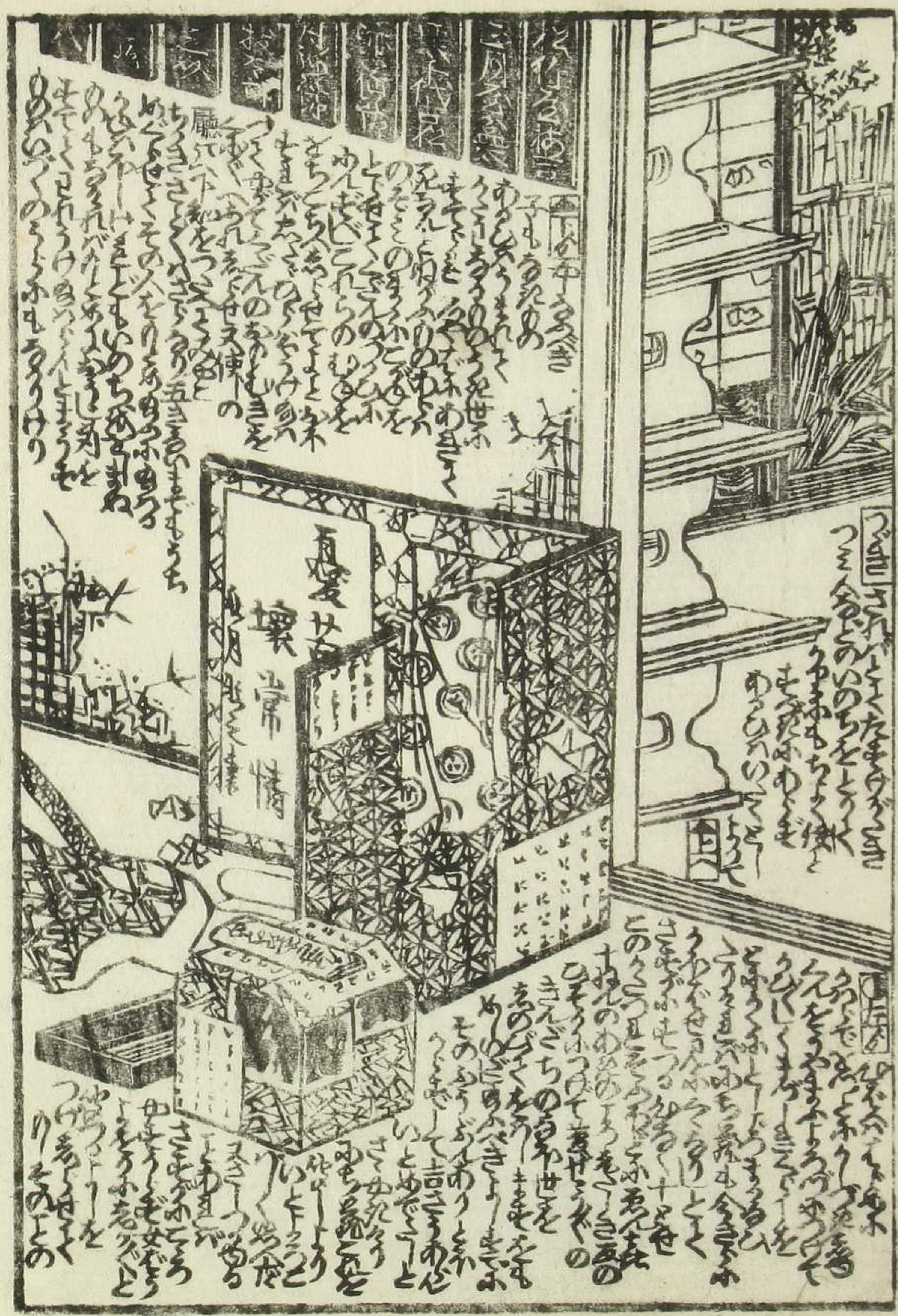


くるしみはちのいけのありさまをおしらせ
あふべくもゆめに男女の頭のひやくぶつう
ちりをもつてもひとつの声ひとつのあらそひ
水にながれて火にもおちて大けうかん
やきたつきうきやうやまひのふかきとまへ
つゆのきへにあらざるはちのわざとなり
むすびに入りていつまでもうかぶことなき
あさましくもあはれなることにこそ
ちかましきよりひとつのことにてあそぶ
えうるごとく世にあるものはあまた
このちのいけといふものはこそあるに
これをのぞいて経を読みて
さればこそちのいけのかたちにて
ちをもつて流るるちのいけに
子をなくしてうまれしものはみな
地ごくのくるしみをうけ
ありていにいふてあまたのひとに
よくちのいけの地ごくのくるしみを
ちぶ大夫が物がたりにてちの池を
ちかうへのこのうそをもつてあれ

左の上より
高
雅
清

右の下
延
忠
つぎへ

[illegible]



[illegible]

[illegible]

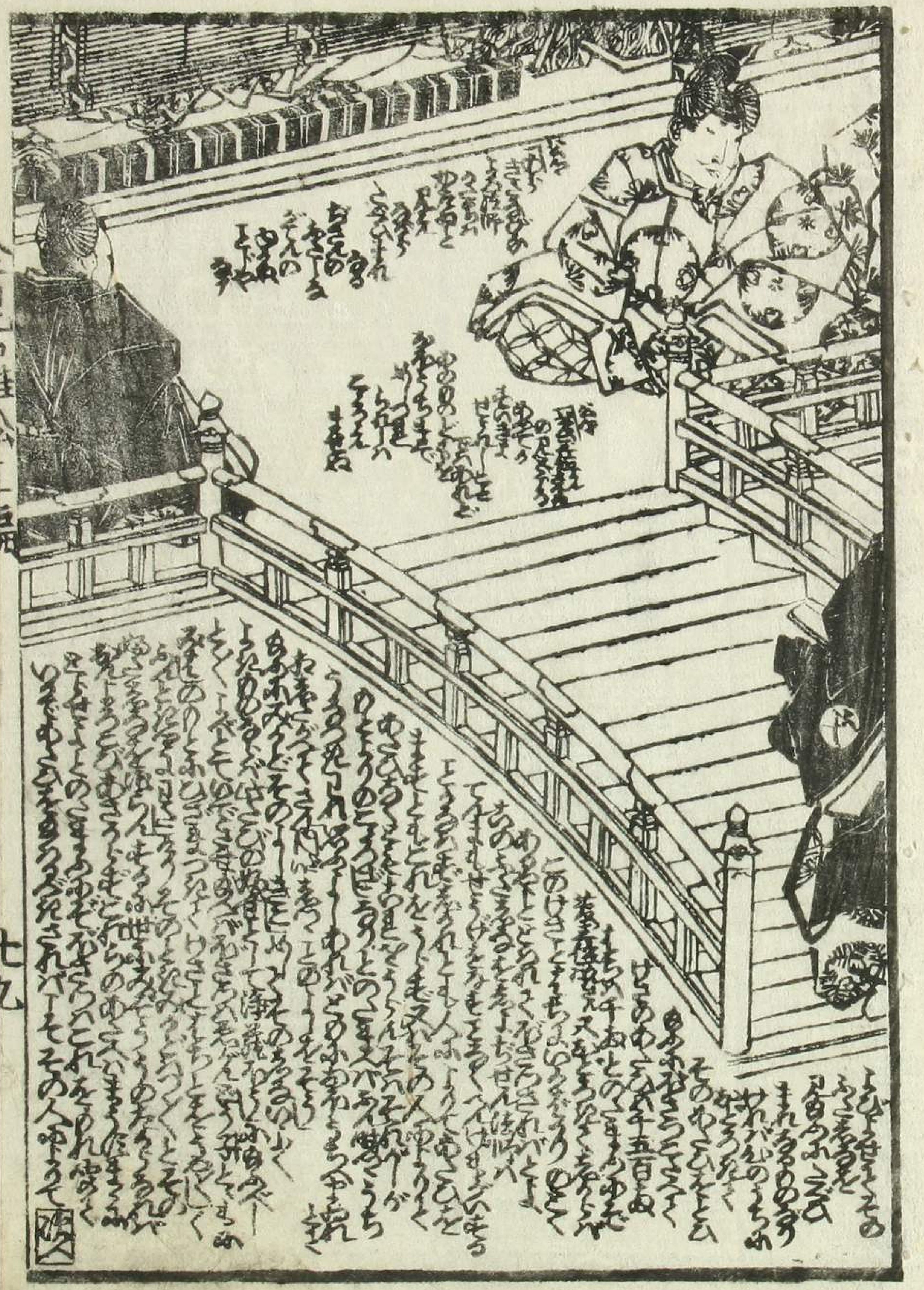
[illegible]

◆左の上へ

左の上へ

右の下へ

つぎへつゞく



又右の下へ
つぎへつゞく

又左の上へ

第四へんはあさ日出へとかはして
うとやさんのりよく
やくのめでたさも
かすがふぎとがかず
なりなわとそくは
つたぬこくつよ是
金毘羅のさうしと
なりえたよのつりの
ぶたうえゆへと
おさがそかん
さくしやの告わけを
あぢゃひ見あなさ
く

家傳神方凍瘡ぬりくすりのた　一包代百銅
精製奇應丸　大包代弐朱　小包代五十卜
この薬をもちひてかならず効能をあらはすこの薬は世のことにもなをこころも許のことし
真方熊胆黒丸子　一包代五十卜
金のいをあらくずにかさるのみすぐ
婦人をとめの妙薬　一包六十四文
元飯田町中坂下南側四方久店　瀧沢氏　製薬
神田明神下同朋町東より二町　瀧沢氏製
取次所　大坂高麗橋筋　芝神明前　泉市

溪斎英泉画（印：英泉）

馬琴作

筆耕　千形仲道

芝泉市板

寐小便の大奇薬

一包代銭三百銅

此御薬ハいかほど年久敷病症にても大人小児男女によらず
かぎらず此下包にて治る事奇しやいえん妙しやいりん是まで
諸人にためし匕用るに一人も治せずといふことなし諸人
のなやめる病なれ世にむさくるしめ浴門の男女寐小便にて困る
しむものおほく世の中に此薬をもちひなば
なく奇妙の良方丸の他をはぶきて見ひて病苦をたちまち
のぞくべし

本家調合所

書物屋
江戸中橋廣小路町
北林堂　西宮弥兵衛